



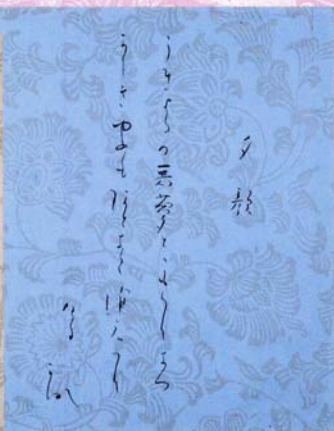
空 蟬



桐 壺



末摘花



夕 顔

詠源氏物語和歌 与謝野晶子自筆

大正8年 1帖 (折本)
縦24.5cm 横21.5cm
(色紙 縦21.5cm 横18.7cm)

平安時代、紫式部により著された『源氏物語』は、美しく才能にあふれた光源氏の生涯を中心に描いた、五十四帖にもおよび長編王朝物語。執筆当初から読者を魅了し、千年もの時をへて愛読されてきた。そして現代、谷崎潤一郎、窪田空穂、円地文子等々、数多くの作家による現代語訳が生み出されているが、その先駆けとなったのは、情熱的な歌集『みだれ髪』（明治三十四年刊）により、当時の若者に一躍名を馳せた浪漫派歌人、与謝野晶子による現代語訳『新訳源氏物語』（明治四十五年）大正二年刊）であった。

晶子は明治十一（一八七八）年、堺の羊羹屋の老舗駿河屋の三女として生まれた。少女時代から古典に親しみ、十二歳の頃には既に『源氏物語』を原文で読んでいたという。

掲出は、晶子が『源氏物語』の各巻ごとに一首を詠んだ和歌。五十四枚の美麗な雲母摺色紙に独特の美しい仮名文字で散らし書きにしている。最後に晶子自筆により「源氏物語の巻々を詠める短歌五十四首を書きて友正宗敦夫に贈る 大正己未一夏日 与謝野晶子」とある。大正己未は大正八（一九一九）年にあたり、晶子四十一歳の時。

この和歌は、雑誌『明星』大正十一年一月号に「源氏物語礼賛」として掲載され、後に『流星の道』（大正十三年刊）にも「絵巻のために」と題して収録。数首は異にするが、晶子三度目の現代語訳『新訳源氏物語』（昭和十三年）四年刊）の各巻冒頭には、「晶子」と署名された自筆色紙の写真が置かれた。

晶子自筆の「源氏物語礼賛」和歌は他に、巻物、屏風、短冊仕立のものも残されているが、掲出は制作の経緯や、最も早い年紀が明記されている貴重な資料である。

（天理図書館 岡本千佳）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし3月19日および27～31日は休み
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）